

大会宣言

JMITUは7月14日～15日、第6回定期大会を開催し、18春闘をはじめとする一年間のたたかいを総括するとともに、2019年度運動方針を確立しました。

大会の討論では、あきらめず粘り強くたたかい要求を前進させている取り組み、安倍9条改憲阻止を訴え、職場や地域で「3000万署名」をひろげている取り組み、「労働組合に加入し雇用と権利をまもろう」と職場での宣伝と対話をひろげ組合加入をすすめた取り組みなど、各地の豊富な経験と教訓が語られました。

同時に、今後の課題も明らかとなりました。多くの組織で、組合員の減少と世代交代がすすんでいるもと、職場での日常活動と産業別統一闘争が次第に弱まっていることが指摘され、これらの課題を解決することの重要性が強調されました。

組織拡大に全力をあげ、今年度こそ長年の悲願である1万人JMITU実現への展望を切り開かなければなりません。そして、確立された運動方針にもとづき、産別としての援助を強め、ひとつひとつの支部の日常活動を強化し、「要求を実現する力」をつけることをめざします。また、あらためて、「統一要求・統一交渉・統一行動」という産業別統一闘争の意義と重要性を全支部・全組合員のものとし、18秋闘、19春闘で産業別統一闘争を飛躍的に前進させます。全支部、全組合員が一丸となって、これらの目標をめざすことで、大幅賃上げをはじめとする切実な要求を実現させましょう。

この通常国会では、過労死激増・残業代ゼロの「働き方改革一括法案」をはじめとする悪法が、労働者・国民の強い反対を押し切って強行成立させられました。国会審議の前提となるデータの捏造、公文書の隠蔽・偽造・廃棄など、まさに議会制民主主義の土台が掘り崩され、政治の私物化と憲法・民主主義をないがしろにする腐敗しきった安倍自公政権への国民の怒りは極地に達しています。

安倍政権は、日本を「戦争をする国」とする9条改憲、また、「解雇自由化」などさらなる労働法制改悪、生活を破壊する消費税増税と社会保障の大改悪を企んでいます。これらの企みを断固阻止するとともに、一日も早く、安倍自公政権を打倒し、立憲主義・民主主義を取り戻すことが求められています。そのためには、2019年に予定されている統一地方選挙と参議院選挙にむけ、市民と立憲野党との共闘をいっそう強めることが重要です。JMITUは、職場・地域から共同をひろげ、政治を変える取り組みの先頭に立ちます。

安心して働き続けられる職場と平和・民主主義を取り戻し、明るい未来を切り開くためにJMITUの総力をあげて奮闘する決意を表明し、宣言します。

2018年7月15日

JMITU（日本金属製造情報通信労働組合）

第6回定期大会